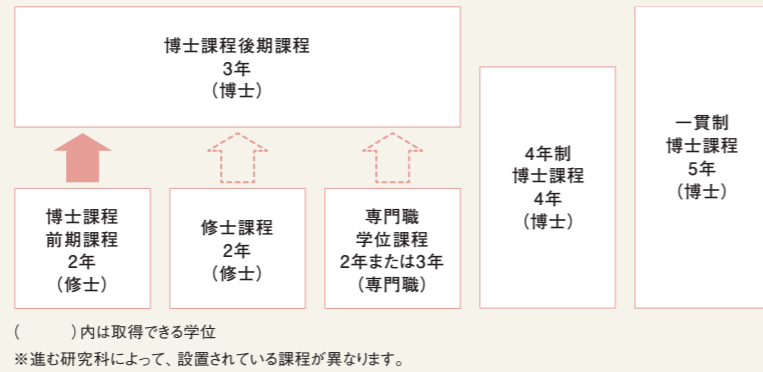


# 大学院・研究推進

## 大学院への進学

大学院進学により、学部で学んだことの専門性をより高め、広く社会で通用する能力や学識を得ることができます。立命館大学には学部を基礎としている研究科や、ビジネススクールのように特定分野のプロフェッショナルを目指す専門職大学院などが設置されています。それぞれの興味関心に沿った多様な学びや研究ができる環境があります。学部から大学院への進学率は、理学学部で53.4%、文系学部で5.9%です(2024年度卒業生実績)。大学院進学するためには、学部在籍時の成績が求められることがありますので、日頃からの学修の積み重ねが大切です。



## 奨学金／研究助成

立命館大学では、大学院進学を積極的に推進しています。特に、経済的な支援を重点的に行っており、本学出身者が本学大学院に進学する場合は入学金20万円を免除しています。そのほか、大学院生のための充実した奨学金や研究助成制度を用意しています。

計画的な奨学金や研究助成制度の活用によって、国際学会などに参加する場合の費用を賄い、さらに研究活動を充実させたい大学院生が研究に専念できる環境を整えています。ぜひ、各種奨学金／研究助成制度を上手に活用し、研究活動の充実・将来のキャリアパス形成に役立ててください。

### 2025年度の例

奨学金名	概要
学生会奨学金	本学大学院生が、学会への参加または学会における研究成果の発表を奨励する奨学金です。参加・発表の形態によりですが、5千円～10万円の範囲で支給しています。
外国語論文投稿支援制度 (大学院生区分)	本学大学院生の研究成果の国際発信を促進することを目的とし、国際学会やジャーナル(論文誌)・国際会議などに投稿を行う際に必要となる校正費や投稿費を助成する制度です。申請時の要件充足状況次第では、最大で10万円が支給されます。
ベーススキル向上支援補助制度	本学が指定する学内の英語学習講座(CLA講座)受講に要した費用全額を補助する制度です。例えばTOEIC®テスト対策講座のための費用は4万円弱ですが、所定の条件を満たせば全学補助を受けられます。

## 進路・キャリアパス形成支援

立命館大学大学院生の就職決定率は、毎年高い実績を誇ります。大学院修了後の進路も、大学教員などの研究者だけでなく、さまざまな業界の民間企業へと広がっています。

本学では大学院キャリアパス推進室を中心に、大学院生が社会で活躍するために必要な情報提供やセミナー、研究活動とキャリア獲得のための活動の相談など、大学院生一人一人の目標とするキャリアに応じた支援を行っています。詳細はホームページ等でご確認ください。

大学院キャリアパス推進室  
[https://www.ritsumei.ac.jp/ru\\_gr/g-career/](https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/)



## 大学院入試情報サイト

大学院に関する情報が必要な方は、「立命館大学大学院入試情報サイト」にアクセスしてください。本ウェブサイトには、「大学院入試説明会」や「大学院ウィーク」など、どなたでも参加可能なイベント情報や、奨学金の案内、大学院生のための進路支援、先輩の声など「大学院」に関わるさまざまな情報が掲載されています。

大学院紹介	入試情報 入試要項ダウンロード	入試イベント	合格発表/入手続
学費・奨学金	進路・就職	留学生の方へ	施設・設備/学修環境
大学院生の声	よくあるご質問	大学院案内・研究科 パンフレットダウンロード	

立命館大学大学院入試情報サイト  
<https://www.ritsumei.ac.jp/gr/>



## 大学院一覧

	課程	専攻	学位	
学部を基礎にもつ研究科	<b>法学研究科</b> Graduate School of Law	K ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	法学専攻 法学専攻	修士(法学) 博士(法学)
	<b>社会学研究科</b> Graduate School of Sociology	K ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	応用社会学専攻 応用社会学専攻	修士(社会学) 博士(社会学)
	<b>国際関係研究科</b> Graduate School of International Relations	K ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	国際関係学専攻 国際関係学専攻	修士(国際関係学) 博士(国際関係学)
	<b>文学研究科</b> Graduate School of Letters	K ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	人文学専攻 行動文化情報学専攻 人文学専攻 行動文化情報学専攻	修士(文学) 修士(文学) 博士(文学) 博士(文学)
	<b>デザイン・アート学研究科</b> Graduate School of Science in Arts and Design (2027年4月、博士課程後期課程 設置構想中。設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります。)	K ●修士課程	デザイン・アート学専攻	修士(デザイン・アート学)
	<b>経営学研究科</b> Graduate School of Business Administration	O ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	企業経営専攻 企業経営専攻	修士(経営学) 博士(経営学)
	<b>政策科学研究科</b> Graduate School of Policy Science	O ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	政策科学専攻 政策科学専攻	修士(政策科学) 博士(政策科学)
	<b>人間科学研究科</b> Graduate School of Human Science	O ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	人間科学専攻 人間科学専攻	修士(人間科学) 修士(心理学) 博士(人間科学) 博士(心理学)
	<b>映像研究科</b> Graduate School of Image Arts	O ●修士課程	映像専攻	修士(映像)
	<b>情報理工学研究科</b> Graduate School of Information Science and Engineering	O ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	情報理工学専攻 情報理工学専攻	修士(工学) 博士(工学)
	<b>経済学研究科</b> Graduate School of Economics	B ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	経済学専攻 経済学専攻	修士(経済学) 博士(経済学)
	<b>スポーツ健康科学研究科</b> Graduate School of Sport and Health Science	B ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	スポーツ健康科学専攻 スポーツ健康科学専攻	修士(スポーツ健康科学) 博士(スポーツ健康科学)
	<b>食マネジメント研究科</b> Graduate School of Gastronomy Management	B ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	食マネジメント専攻 食マネジメント専攻	修士(食マネジメント) 博士(食マネジメント)
	<b>理工学研究科</b> Graduate School of Science and Engineering	B ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	基礎理工学専攻 電子システム専攻 機械システム専攻 都市システム専攻 基礎理工学専攻 電子システム専攻 機械システム専攻 都市システム専攻	修士(理学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 博士(理学) 博士(工学) 博士(工学) 博士(工学) 博士(工学)
<b>生命科学研究科</b> Graduate School of Life Sciences	B ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	生命科学専攻 生命科学専攻	修士(理学) 修士(工学) 博士(理学) 博士(工学)	
<b>薬学研究科</b> Graduate School of Pharmacy	B ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程 ●4年制博士課程	薬科学専攻 薬科学専攻 薬学専攻	修士(薬科学) 博士(薬科学) 博士(薬学)	
独立研究科	<b>言語教育情報研究科</b> Graduate School of Language Education and Information Science	K ●修士課程	言語教育情報専攻	修士(言語教育情報学)
	<b>先端総合学術研究科</b> Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences	K ●一貫制博士課程	先端総合学術専攻	博士(学術)
専門職大学院	<b>テクノロジー・マネジメント研究科</b> Graduate School of Technology Management	O ●博士課程前期課程 ●博士課程後期課程	テクノロジー・マネジメント専攻 テクノロジー・マネジメント専攻	修士(技術経営) 博士(技術経営)
	<b>法務研究科【法科大学院】</b> School of Law	S ●専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士(専門職)
	<b>教職研究科【教職大学院】</b> Graduate School of Professional Teacher Education	S ●専門職学位課程	実践教育専攻	教職修士(専門職)
	<b>経営管理研究科【ビジネススクール】</b> Graduate School of Management	O ●専門職学位課程	経営管理専攻 観光マネジメント専攻	経営修士(専門職) 観光経営修士(専門職)

K 衣笠キャンパス O 大阪いばらきキャンパス B びわこ・くさつキャンパス S 朱雀キャンパス

## 研究推進

立命館大学は人類・自然・地域社会の発展に貢献する研究大学として最先端の取り組みに挑戦しています。その成果は、社会貢献のために活用されるだけでなく、学部・大学院の研究・教育に生かされ、さらなる高度な研究および研究者の育成につながっています。人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機構を設置し、基礎から応用まで幅広い活動を展開すると同時に、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。

研究をより高いレベルで推進するため、2006年度から5年毎に独自の計画を策定し、「立命館大学研究高度化中期計画」として取り組んでいます。これまで、この中期計画を基盤としながら研究支援制度の充実を図り、外部資金獲得につながる成果の創出や研究拠点形成に取り組んできました。その結果、全国レベルの高い実績を上げています。

研究・産学官連携ホームページ  
https://www.ritsumei.ac.jp/research/



## [データでみる立命館の研究力]

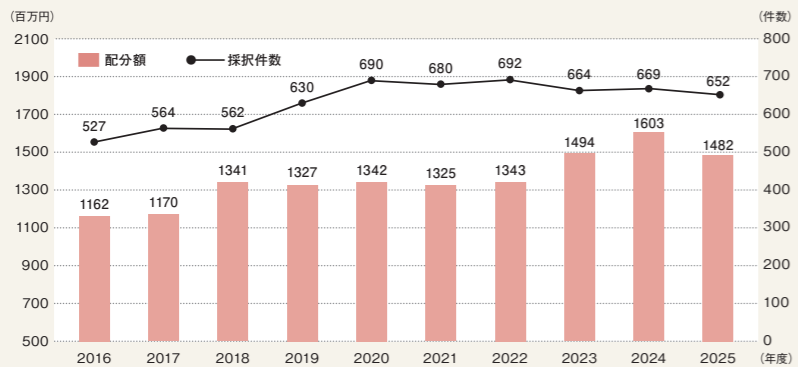
### 科学研究費助成事業 -科研費-

立命館大学は、2026年3月に発表された「令和7年度科学研究費助成事業の配分」において配分額は私立大学4位、採択件数は私大5位（ともに西日本私立大学1位）となりました。全国では、配分額・採択件数ともに24位となっています。また、配分額では3年連続で14億円を突破しています。

審査区分別（中区分別採択件数上位10機関 ※過去5年間の新規採択の累計数）では、8区分が全国10位内にランクインし「地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野」「社会学およびその関連分野」「人間情報学およびその関連分野」で私立大学1位となり、多様な分野で本学の強みを活かした独創的・先駆的な研究を進めています。

科学研究費助成事業(科研費)・・・科学研究費助成事業とは、文部科学省の競争的研究資金のひとつであり、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる研究を助成する制度で、年間予算は2,000億円を超え、我が国の科学技術の発展には欠かせない重要な研究費です。

### ■ 本大学の採択件数・配分額の推移(新規課題・継続課題)



### 科研費ランキング

配分額	採択件数
1位 慶應義塾大学	1位 早稲田大学
2位 早稲田大学	2位 慶應義塾大学
3位 順天堂大学	3位 順天堂大学
4位 立命館大学	4位 日本大学
5位 東京理科大学	5位 立命館大学
6位 日本大学	6位 東京理科大学
7位 近畿大学	7位 近畿大学
8位 同志社大学	8位 東海大学
9位 北里大学	9位 北里大学
10位 東海大学	10位 昭和医科大学

※令和7年度配分額・件数(いずれも新規・継続)私立大学のみ

### ■ 審査区分別の状況 (中区分別採択件数上位10機関\*)においてランクインした中区分 ※過去5年間の新規採択数の累計数

- 思想、芸術およびその関連分野
- 文学、言語学およびその関連分野
- 地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野
- 政治学およびその関連分野
- 経済学、経営学およびその関連分野
- 社会学およびその関連分野
- 心理学およびその関連分野
- 人間情報学およびその関連分野

※文部科学省発表「令和7年度科学研究費助成事業の配分について」(2026年3月27日)より抜粋

## 世界大学ランキング

本学では世界大学ランキングの向上に向けた取り組みを進めており、2025年に発表されたQS世界大学ランキングにおいて国内私立大学で3位となりました。また、大学のSDGsの取り組みを評価するTHEインパクトランキングでは、世界で総合評価201-300位にランクインし、国内の私立大学で2年連続1位タイの最高位の評価を受けました。このランキングでは総合評価に加えてSDG別ランキングも発表され、本学は「SDG1: 貧困をなくそう」で3年連続全国1位(世界35位)をはじめ、「SDG2: 飢餓をゼロに」、「SDG6: 安全な水とトイレを世界中に」、「SDG15: 陸の豊かさを守ろう」で世界トップ200にランクインしました。

QS世界大学ランキング

国内私立大学 第3位

THEインパクトランキング (SDGsの取り組みを評価)

総合評価 国内私立大学 第1位タイ

SDG1で3年連続全国1位(世界35位)、SDG2、SDG6、SDG15でも世界トップ200入り

## 研究機構・研究所・研究センター

### 立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文学・社会科学分野との融合を図り、学際的研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

### 衣笠総合研究機構

研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支援しています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。

- 人文科学研究所 ● 国際地域研究所 ● 国際言語文化研究所 ● 人間科学研究所
  - アート・リサーチセンター ● 歴史都市防災研究所 ● 白川静記念東洋文学文化研究所
  - 生存学研究所 ● 研究センター
- 加藤周一現代思想研究センター／地域健康社会学研究センター／コア研究センター／クリエイティブ・メディア研究センター／中東・イスラーム研究センター／東アジア平和協力研究センター／間文化現象学研究センター／ゲーム研究センター／法政基礎研究センター／環太平洋文明研究センター／災害危機レジリエンス研究センター

### 総合科学技術研究機構

産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的とし、従来の研究領域を超えた分野横断型の研究を展開しています。

- 理工学研究所 ● SRセンター ● VLSIセンター ● スポーツ健康科学総合研究所
  - 研究センター
- 環境テクノロジー・マネジメント研究センター／防災フロンティア研究センター／バイオメディカルエンジニアリング研究センター／琵琶湖・環境イノベーション研究センター／創薬科学研究センター／宇宙地球探査研究センター／古気候学研究センター／先端材料研究センター／ロボティクス研究センター／半導体応用研究センター／システム視覚科学研究センター／生物資源研究センター

### 立命館アジア・日本研究機構

学長直轄の研究組織で、「[アジア・日本研究]をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成」をミッションとし、「アジアの時代」に資する立命館らしいコンセプトと戦略性を兼ね備えた研究を推進しています。国内外の研究機関と連携し、多様な研究ネットワークの中核としての機能を発揮しながら、グローバルな視点でアジア・日本研究を推進していくことを目的としています。直下のアジア・日本研究所では、「共生」「共創」「協働」をキーワードとした総合的実践研究に取り組み、次世代研究者の育成に力を入れながら、研究活動と成果発信を進めています。

- アジア・日本研究所

### BKC社系研究機構

人文社会科学分野における企業・自治体などとの共同研究や、自然科学系分野との交流による学際的研究を促進することを目指し1998年に設置されました。社会性・国際性・公開性・学際性を重視した活動を行い、学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的としています。

- 社会システム研究所
- 研究センター ファイナンス研究センター／食総合研究センター

### OIC総合研究機構

大阪いばらきキャンパス(OIC)の教学コンセプトである「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」に基づきグローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

- 地域情報研究所 ● デザイン科学研究所
  - 研究センター
- サステイナビリティ学研究センター／先端ICTメディカル・ヘルスケア研究センター／医療介護経営研究センター／ものづくり質的研究センター／知能化社会デザイン研究センター／IoTセキュリティ研究センター／日本バイオ炭研究センター／先端認知科学研究センター／法心理・司法臨床研究センター

※上記は、2026年3月1日現在に設置している研究機構・研究所・研究センターです。

## 特徴的な施設

### 【各キャンパス】 図書館・資料室

各キャンパスに図書館を設置しており、蔵書数は4キャンパス合計で約350万冊。他キャンパス、他大学の図書館などの蔵書を所属キャンパスへ取り寄せることができます。各資料室には専門性の高い研究資料を多く所蔵しています。



平井嘉一郎記念図書館(衣笠キャンパス)

### 【衣笠キャンパス】 究論館

個人の研究促進に加え、グループでのディスカッションや共同研究、研究成果の発信・共有、さらには研究科・課程を越えた学びを促進する大学院生用施設です。変化に富んだ多様なコモンズ空間やラウンジなど、集中だけでなく会話の場、思考の場にふさわしい空間です。館内で自由に利用できるノートパソコンの貸出もあります。

